

近年の社会的養護の現状及び制度改正の動向に関する次の記述ア～エのうちには妥当なものが二つある。それらはどれか。

- ア. 里親やファミリーホームに委託された要保護児童の数は増加する傾向にある。
- イ. 社会的養護を必要とする児童においては、全体的に障害等のある児童が増加する傾向にある。
- ウ. 満20歳に達した者については、児童自立生活援助事業の対象から一律に除外されることになった。
- エ. 民間事業者が養子縁組あっせん事業を実施する場合、従来は都道府県知事の許可を受ける必要があったが、法改正によって市町村長への届出のみで事業実施が可能となった。

- 1. ア, イ
- 2. ア, エ
- 3. イ, ウ
- 4. イ, エ
- 5. ウ, エ

正答 1

リーダーシップの理論に関する次の記述のうち下線部分が妥当なのはどれか。

1. 三隅二不二は、リーダーシップの機能を課題達成機能と集団維持機能の二つに分類し、両者を高水準で達成する型のリーダーシップについて、最も高い集団生産性を生み出すが、メンバーの意欲・満足度は最も低いことを明らかにした。
2. ハーシーとブランチャードは、メンバーの成熟度によってリーダーシップは変化するとし、非常に成熟度の高い段階では、リーダーは介入せずに信頼して任せる委譲的リーダーシップが最も効果的であることを明らかにした。
3. ハウスとデスラーは、メンバーが目標（ゴール）に達するためにはどのような道筋（パス）があるかを示すことが重要と考え、そのために、リーダーはメンバーに対し常に具体的で細かい指示を出すことが重要であることを明らかにした。
4. ブレイクとムートンは、リーダーの行動スタイルを人間に対する関心と業績に対する関心の2次元で捉え、リーダーシップが最高に発揮されるためには、リーダーが業績よりも人間に高い関心を払っている場合であることを明らかにした。
5. フィードラーは、リーダーの特性を LPC 得点（最も仕事をしたくない同僚への評価）によって表し、LPC 得点が低いリーダーは、いかなる集団状況でもリーダーシップを有効に発揮できることを明らかにした。

正答 2